

# 少数精鋭

～1%がささえる建築物～



情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するこのコーナーも、2012年4月に開始して以来今回で50回目となります。これまで、技術系の土木職や電気通信職、機械職のほか事務職の仕事を取り上げてきましたが、未だご紹介していない職種があります。それは、全職員に占める割合がおよそ1%の建築職です。

今回は、峯の仕事を通して水資源機構における建築職の業務を紹介します。



## Profile

設備保全室建築課

**峯 健太** *Kenta Mine*

民間企業において、建築現場の施工管理を約6年間経験の後、平成26年4月に水資源機構に入社、現職。

## 入社のきっかけ

前職では、更地に建物が新たに建つ新築工事からマンションの大規模修繕やテナントの内装工事のような改修工事まで様々な建築工事の施工管理を経験してきたという峯。発注者や下請け業者との調整から、工程管理、安全管理、品質管理などを担ってきた。

そんな峯が水資源機構への入社を考えるきっかけとなった工事があるという。「いつの頃からか公共工事をやってみたいという思いがありました。そんな時にとある水道局の施設工事に携わる機会があり、水に関わる公共工事に関心を持ったのがきっかけです。」そんな思いを実現させるため、峯は水資源機構に入社した。

## 建築職の特徴

他の職種の職員は各地の事業所に配属されているが、建築職はそのほとんどが、本社や支社などに配属され、管内全体の建物を担当する。峯も入社当初から本社に



配属された。「一人でいくつもの事業所の建築工事を担当します。席は本社に置いていますが、ホームは現場だと思っています。」峯の感覚では、8割が現場の仕事で残りの2割が管理部門としての業務だそうだ。

水資源機構に入社して2年の峯。そんな峯から見て先輩職員たちはどの様に映るのだろうか？「建築職の先輩方は、良い意味で自己主張の強い人が多いように思います。それから、チームワークと結束力は、他のどの職種の方々にも負けないくらい強いですね。たぶん、少数精鋭です。」

## 見捨てられなかった

ところで、同じ建築業務だが、民間企業と水資源機構とではどんな違いがあるのだろうか？峯によると「建物の新築や改築を行うという意味では、大きな違いはありません。なので、工事が終わったときの達成感を感じる瞬間も同じです。一方、その過程はかなり違います。」具体的にいうと？「民間工事の時は、正直に言うところ細かいところは感覚で“これくらいかな”という部分がありました。でも、今は工事発注の積算の段階から最後の検査の段階まで、事細かに基準ややり方が決まっています。ミスや見落としがしないかものすごく気を遣いますね。」

そんな仕事のやり方の違いで入社当初は苦労したという。「初めて担当した工事では、様々な基準類を調べながら進めても結果にたどり着かず、先輩に何度も指導とチェックをしていただきました。しかし、なかなか業務の終わりが見えずに、先輩に見捨てられるの

ではないかと恐怖すら感じました。」それでも、これまで仕事を続けてこられたのも、建築職の結束力によるものだと教えてくれた。

## 早く一人前に・・・

最後に、今後の課題や目標を聞いてみた。「建築業務は、建物の目的によって様々な基準に適合させていかなければなりません。例えば、事務所とポンプ室や電気室では、室内環境、騒音や振動などに対する対応も全く違ってきます。幅広い視野と知識を持って業務を進めることが出来るよう、日々勉強中です。」さらに、「水資源機構が管理する施設も老朽化に伴い、改築や改修が必要になってきています。早く一人前として対応出来るようにならないといけませんね。」少数精鋭の建築職のなかでは、一番若い部類に入る峯だが、そんな彼が建物だけではなく、水資源機構を支える日は、すぐそこまで来ている、か？



公共工事では“国語力”が必要、と感じている峯。日頃から様々な本を読んでいるという。最近のお気に入り、久々に最近読み返した「銀河鉄道の夜」だとか。限りなく沢山の人と交流を持つことが目標という峯は、宴会部長のイメージがあったが、意外な一面もあるようだ。